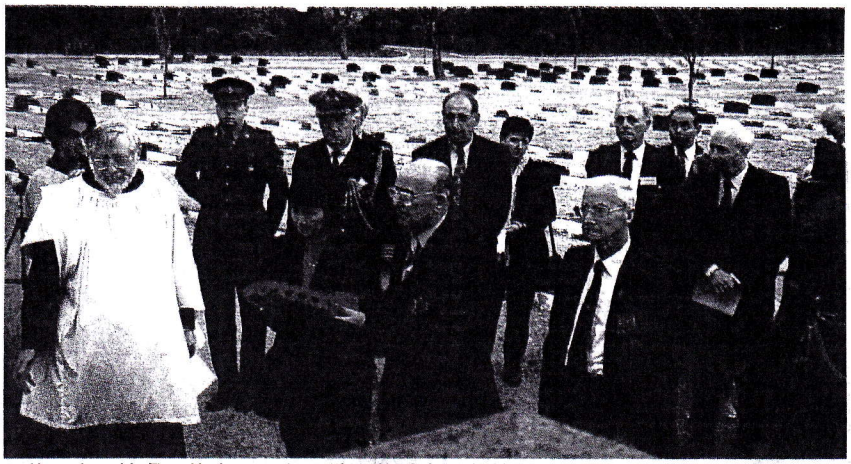
日英結んだ女性 晩さん会に

天皇訪英時に 英王室が招待

元英軍人捕虜の心とかした



英国人元捕虜の代表とともに戦没英兵士に花輪をささげる恵子ホームズさん＝横浜市保土ケ谷区の英連邦兵士の墓で

英国で暮らす一人の日本人女性に、エリザベス女王から、バッキンガム宮殿への招待状が届いた。招待の日付は五月二十六日。その前夜、国賓としてロンドンに入る天皇、皇后両陛下を迎える歓迎晩さん会への招きだった。戦時中に日本軍の捕虜として厳しい体験を強いられた元英軍兵士らの中に単身飛び込み、その訪日のため、両国の人々の和解のために献身してきた。終戦まで郷里・三重県紀和町の鉱山で多くの英国人捕虜が働かされ、何人かが死んでいったこと、その墓を地元の人が手厚く守っていることを知ったのがきっかけだった。女王は、今月二十八日には、元捕虜の人たちとともにこの女性をウィンザー城に招き、第四級勲功章（OBE）を贈って、飲み物を手に親しく懇談する。

（編集委員・岩井克己）

先月末、横浜市保土ケ谷区にある英連邦兵士の墓を三十人近い英国人らがひっそりと参拝した。在英日本人の恵子ホームズさんが付き添っていた。

長崎の原爆資料館、平戸での日本人家庭宿泊、沖縄でのひめゆりの塔参拝などを経て東京に入った。

歓迎会で、元捕虜の代表は「戦争の惨禍に巻き込まれた各地で、人々が憎しみを忘れて平和のための運動に取り組み、旧敵国の私たちを温かく迎えてくれた。私たちも憎しみを捨てて友情の手を握り合いたい」とあいさつ。泰緬鉄道建設にかかわった元日本兵も駆けつけ、おわびの言葉を述べた。

保土ケ谷での墓参は、その翌日だった。賛美歌を歌い、黙とう。元捕虜の代表と、恵子さんが並んで十字架の前に進み花輪を供えた。

小鳥のさえずりが聞こえる墓地に柔らかい日差しが注ぎ、祈りをささげる年老いた元捕虜や家族らの表情は穏やかだった。

恵子さんによる元捕虜や家族の日本ツアーの企画はこれで六回目になる。

恵子さんは、英国人と結婚して一九八〇年からロンドンに住んでいる。八四年に夫を飛行機事故で失い、八八年に帰郷した際、郷里の人々が英兵戦没者記念碑を立派に建て替え、老人会の人たちが花を絶やさず、掃除や草取りを続けていることを知った。

戦時中、同町板屋（旧入鹿村）の鉱山で、南方戦線で捕虜になった約三百人の英軍兵士が使役され、十六人が死亡している。その名を刻んだ石碑をカメラに収めた恵子さんは、村人の善意を英国の戦友たちに知らせたいと思った。

九一年十月、ロンドンのバービカンセンターで極東捕虜協会（FEPOW）の全国大会が開かれることを知り、元捕虜（地名をとってイルカ・ボーイズと呼ばれる）たちを捜そうとして重い現実にぶつかった。

入場券を買いたいと申し入れると「日本人が何を考えているんだ」ととりつく島もなかった。当日、約千人が集まった会場を訪ねると、日本軍に痛めつけられた人々の長年の苦しみと恨みが渦巻いていた。

突然やってきた日本人に「用はない」「帰れ」と怒声が飛んだ。

中にとりなしてくれる人もいて、やがて何人ものイルカ・ボーイズが名乗り出た。熱心なクリスチャンの恵子さんはこの時、「彼らがいかに深く傷ついているかを知り、自分の使命を感じた」という。

郷里の人々や勤労動員の中学生たちと捕虜との交流の様子、日本にある記念碑のことなどを「片隅に咲く小さな英国」という小冊子にまとめ、つてをたどって配った。やがて日英双方から再会を望む声が上がり、寄付を募り始めた。

当初は、英国に進出した日本企業も相手にしてくれなかった。だが、次第に反響が広がり、九二年十月、二十六人の元捕虜・家族の訪日と紀和町での合同慰霊祭が実現。以後、ほかの元捕虜も対象にして毎年のように続けられている。

近年は日本の外務省も助成するようになった。政府や外交官が半世紀も積み残してきた「和解」への重い扉のかぎを、一人の女性が開けた形だ。

恵子さんは「地元紀和町をはじめ多くの人たちが主役。捕虜の人たちの心のいやしにはまだ長い道のりが必要」と語っている。

捕虜虐待問題 第二次大戦中に日本軍が虐待して死亡させた連合国軍捕虜は多数にのぼる。例えば、一九四二年から四三年にかけてタイ―ミャンマー（ビルマ）間四百十五キロに建設した泰緬鉄道工事では、捕虜六万八千人を使い、そのうち一万数千人が死亡した（アジア人労働者も数万人が犠牲になった）とされる。英国では五万人の戦争捕虜や民間人抑留者が虐待を受けたとみられている。

九五年には村山首相がおわびの言葉を述べ、橋本首相も今年一月のブレア首相との会談などで反省とおわびの気持ちを伝えた。しかし、戦時賠償問題はサンフランシスコ条約で決着済みとの立場。これに対し、生存者や遺族の一部は日本政府の公式謝罪と賠償を求める訴えを東京で起こしている。

七一年の昭和天皇の訪欧では、英国、オランダなどで責任追及の動きがあった。今回の天皇訪英でも、元捕虜らがクワイ河マーチを口笛で吹く抗議行動を計画するなど、日本の戦争責任や戦後補償に改めて関心が集まりそうだ。